

秋篠宮ご夫妻、若手研究者を激励

日本学術振興会賞・学士院学術奨励賞の授賞式

秋篠宮ご夫妻が臨席されるなか、優れた若手研究者を顕彰する「日本学術振興会賞」ならびに日本学士院学術奨励賞の授賞式が2月3日、東京・上野の学士院会館で執り行われた。日本学術振興会賞は優れた成果を挙げた45



秋篠宮ご夫妻が見守られる中、執り行われた「日本学術振興会賞ならびに日本学士院学術奨励賞」授賞式

歳未満の若手研究者を顕彰・支援するもの。対象は人文科学、社会科学、自然科学にわたる全分野で、今年度、「ミトコンドリア伝播による新たながん免疫逃避機構を解明」した岡山大学学術研究院医歯薬学域(医)教授の富樫庸介氏ら25名が選ばれた。受賞者には副賞として研究奨励金110万円が贈呈される。また、同賞受賞者の中から毎年数名に、日本学士院学術奨励賞を授与しており、今回、富樫教授ら6名が選ばれた。

受賞者を代表してあいさつした富樫氏は「昨今、我が国では研究離れや研究力の低下が懸念されている。しかし、変化が激しい時代だからこそ、遠回りに見えるようなことも大切に、分野の垣根を超えた広い視野を持って新しい挑戦を続けることの重要性を実感している」「このような賞から、研究を広く社会に知ってもらおうことで『研究ってカッコいい』『自分も挑戦したい』と思う人が増えればこれほど嬉しいことはない」などと語った。

秋篠宮さまはあいさつで、「若い世代の研究者が業績を上げていかれることは、学術の発展を期待し、その成果を享受、あるいは共有する国民にとっても大変喜ばしいことと申せましよう。今後さらに充実した研究を進められ、世界的に活躍されることを心から願っております」と述べられた。

授賞式後、秋篠宮ご夫妻は記念茶会で若手研究者らと懇談され、研究者一人ひとりを激励された。